

OCG インドネシアのLRT延伸で式典

オリエンタルコンサルタンツグローバル（OCG）を幹事会社とする4社JVが建設と鉄道運営を担当する「LRTジャカルタフェーズ1B」（ヴェロドーム～マンガライ線）の1区間（ヴェロドーム駅とラワマゲン駅間）の運転式典が14日に開かれた。

インドネシアのJakarta Propertiindo(Perseroda)が運営するLRTジャカルタは、2019年12月にプガンサアンドゥア駅～ヴェロドーム駅間を結ぶフェーズ1区間が開業した。

今回の事業は、その延伸となるヴェロドーム駅～マンガライ駅間（延長約6.4km、全線高架、5駅）が対象。首都ジャカルタの北東部と中心部をLRT（次世代路面電車）で結ぶことで、年々深刻化する首都の交通渋滞解消などに寄与する。4社JVは事業区間の基本設計照査、入札



図書作成、入札支援、施工監理を担っている。

詳細設計から施工監理ではBIMの4D機能を活用することで、設計の合理化、工事リスクの低減、工程管理の最適化を実施し、短期間で大きな成果を出すことに成功した。全線工事の完了は26年8月末を予定している。

今後、マンガライ駅からドックアタス駅までの延伸工事が予定されており、将来的には北部延伸により内環状線を形成する計画もある。